



# 祐介の目

大田ゆうすけ  
(福山市議会議員)

No.63

毎月1日号に掲載

様は、結果論を述べているに過ぎないと感じる。

どんな結果であれ原因やプロセスがある。それに携わった政治家にも責任があるが、他にも利害関係者があったり、法規制や財源の問題があったりと、評論家が言うように簡単に解決する話ではない。いずれにしても、予算執行権の無い(財布を持たない)議会を批判することにより溜飲をさげるだけの報告会なら開催する意味が無い。

荒れる議会報告会  
平成25年から始めた福山市議会・議会報告会も今年が4回目の開催となった。議長を除く39人の議員が4班に分かれ、市内8会場で開催している。従来は議員各自が個別に市政報告会を開いていたが、議会基本条例の制定を契機に、開かれた議会を旨指して議会全体で開催するようになった。

何しろ主義主張の異なる議員全員で開催するのだから、報告内容が偏らないように検討を重ね、スポーツ振興議員連盟の取り組みや里山里地保全事業、政務活動費の執行状況、小中学校の耐震化や再編等について私が説明資料のパワーポイントを作成した。

さて、どうしたら議員と参加者が前向きな意見を積み上げるような建設的な報告会になるだろうか。例えば井原市では参加者を小グループに分け、議員と円卓を囲む座談会形式で開催している。また、議会の委員会別に報告会のテーマを分ける事も一案だ。例えば「医療・福祉」「道路・上下水道」「教育・経済」「駅前活性化・競馬場跡地」などいかがだろう。テーマを絞った方が問題意識を共有でき、より活発な意見交換がなされることだろう。

最後に、議会批判をよく聞いてみれば、我々議員が市長をはじめとする執行部に対して意見している様子と似通っている。耳が痛い、ある意味において我々は市民の声を代弁していたと自信も持てた。